

厚生労働科学研究費補助金（慢性の痛み対策研究事業）
分担研究報告書

腰椎手術患者の術前心理評価法の必要性についての研究

研究分担者 川上 守 和歌山県立医科大学附属病院紀北分院整形外科 教授

研究要旨

本研究の目的は、当院で使用している腰椎手術患者に対する各種の心理評価法から、どの評価法が必要かを検討することである。今回腰椎疾患を有する症例 191 名（男 115 人、女 76 人）に術前評価として、腰椎、下肢痛、下肢しびれの VAS、JOABPEQ、SRQ-D(Self rating questionnaire of depression)、PCS(Pain catastrophizing scale)、PASS-20(Pain anxiety symptoms scale -20)、HADS(Hospital anxiety and depression Scale)、BS-POP(Brief scale for psychiatric problems in orthopaedic patients)を用いた。JOABPEQ の下位尺度の心理的障害と PCS、BS-POP 医療者用との関連は乏しかった。JOABPEQ の心理的障害と SRQ-D に強い相関がみられたが、JOABPEQ の健常者の基準値がまだ不明であるため、現時点では SRQ-D を用いた評価が必要である。したがって、術前の心理評価として JOABPEQ の心理的障害、SRQ-D、PCS、BS-POP 治療者用が必要である。

A．研究目的

腰痛疾患の発生や慢性化に心理社会的因子が関与することが指摘されている。今回、腰椎手術患者に対する各種の心理評価法から、どの評価法が必要かどうかを検討した。

B．研究方法

腰椎疾患に対して手術を行った症例の内、下記の評価法がなされていた 191 名（男 115 人、女 76 人）を対象とした。術前評価として、腰椎、下肢痛、下肢しびれの VAS、JOABPEQ、SRQ-D(Self rating questionnaire of depression)、PCS(Pain catastrophizing scale)、PASS-20(Pain anxiety symptoms scale -20)、HADS(Hospital anxiety and depression Scale)、BS-POP(Brief scale for psychiatric problems in orthopaedic

patients)をアンケート調査した。統計学的に評価し、尺度間の相関係数が ± 0.5 より大きく、 $P < 0.01$ で有意な相関があるとし、必要な心理評価の尺度を検討した。

本研究は、すべての被験者に参加の同意を文章により得た。

C．研究結果

JOABPEQ の心理的障害と SRQ-D、PASS-20、HADS に、SRQ-D と BS-POP 患者用に、PCS と PASS-20、HADS、BS-POP 患者用に、PASS-20 と HADS、BS-POP 患者用、HADS と BS-POP 患者用に強い相関がみられた。

D．考察

JOABPEQ の下位尺度の心理的障害は多くの心理評価法と相関がみられたが、PCS、BS-POP

医療者用との関連は乏しかった。JOABPEQ の心理的障害と SRQ-D に強い相関がみられたため、SRQ-D の評価は必要ない可能性がある。しかしながら、JOABPEQ の健常者の基準値がまだ不明であるため、現時点では SRQ-D を用いた評価が必要である。

E . 結論

JOABPEQ の心理的障害、SRQ-D、PCS、BS-POP 治療者用を用いることで、概ね腰椎疾患手術患者の心理評価が可能である。

F . 健康危険情報

総括研究報告書にまとめて記載。

G . 研究発表

1.論文発表

なし

2.学会発表

1)北川智子、森下詔子、堀江佳代子、中尾慎一、福井大輔、川上守. 腰椎手術患者の術前心理評価法に何が必要か? . 第122回中部日本整形外科災害外科学会 2014 4 岡山 発表予定

H . 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1.特許取得

なし

2.実用新案登録

なし

3.その他

なし

